

『沖縄県NPOプラザ』

バナナ通信

発行日：2005年9月10日
発行：沖縄県NPOプラザ
〒900-0034
沖縄県那覇市東町1-1
県那覇東町会館3階
TEL：098-941-3113
FAX：098-941-3114
E-mail：npo-plaza@
tontonme.ne.jp

沖縄県内のNPO法人数

188法人(8月末現在)

★8月に認証されたNPO法人★

- ・特定非営利活動法人 沖縄盲導犬普及協会
- ・特定非営利活動法人 ブルティータ沖縄
フットボールクラブ
- ・特定非営利活動法人 沖縄県立現代美術館
支援会 happ
- ・特定非営利活動法人 沖縄地理情報システム協議会
- ・特定非営利活動法人 ぷろぷ
- ・特定非営利活動法人 HIV人権ネットワーク沖縄
- ・特定非営利活動法人 沖縄地域観光研究会

今月号の紙面から

2・3面：NPO法人紹介

NPO法人「ゆいベース・エル」

4面：「社会起業家の時代とガバナンスの重要性」 日本銀行那覇支店長 大澤真より

5面：学生とNPO 沖縄県NPOプラザ安次富より

6面：ミニ会計講座 PART2

経理帳簿の作成処理をする上でのポイント

プラザからのお知らせ

アンケートのご協力有り難うございました。

今後も何かありましたら、ご意見、ご要望をお寄せ下さい。ご協力誠に有り難うございました

実践会計講座初級編10月12日(水)開催決定！！

「一通りの帳簿の付け方をマスターできます」

詳しくは、別紙をご覧ください。

NPO活動支援セミナー「広報力をみがく！ゼロからわかるPR術」

沖縄県ボランティア・市民活動支援センター主催のセミナーが9月30日(金)、10月1日(土)に開催されます。詳しくは、別紙をご覧ください。



ゆいベース・エルとは

私達、NPO法人ゆいベース・エルは、「市民の生涯学習活動を支援すること」を目的に、平成16年1月に設立致しました。生涯学習とは「家庭、学校、地域、職場など、あらゆる生活の場において、一人ひとりが自由に、自らテーマを選んで、自分にあった手段、方法を選びながら、必要なときに生涯を通じて学んでいくこと」と私達は考えます。その市民の自主的で自発的な活動を支えるために、より適切な活動場所、より有用な情報、より的確な助言を提供することが私達のミッションです。

これまでの活動としましては、シンポジウム「図書館ができること」やフォーラム「図書館とマンガ」「福祉と図書館」などを開催し、生涯学習についての普及啓発活動などを行って参りました。そして平成16年10月には新設された那覇市立繁多川図書館の業務受託を受け、平成17年4月より開館運営しています。

NPOで図書館運営? ~ゆいベース・エルの図書館とは~

学びたいは「生涯学習の原点」。支援拠点としての図書館。

図書館は何をすところか?と聞かれた場合、多くの方は「本がタダで読めるところ」、「本がタダで借りられるところ」と答えるでしょう。本というものを単なる読み物として捉えた場合、それは正しい。しかしあなたがもし、何か知りたい、何かやってみたい、先人達の知恵や経験を学びたいと思った場合、それらの解や方法、知識などを、いつでもこちらが望む時に提供してくれるものもまた本なのです。最近では電子資料やインターネットという新たな手段もありますが、それらが出現するまでは、人類にとって本こそが最良の記録伝達媒体だ



このです。そして、その情報総ボリュームやアクセス性の高さ、操作性の容易さなどから、本はまだまだその主役を譲ってはいないでしょう。



図書館ではそれらを集めて無料で貸出だけでなく、利用者の要求や課題を叶えるために適切な情報ソースを選択・提供してくれるサービスを行っています。知りたい、やってみたい、学びたいはまさに生涯学習の原点。つまり、情報が集まり、知識や経験が集まり、人が集まる図書館ほど、生涯学習活動に最適な施設は他に見当たらない。

これはすなわち、私達が求める生涯学習活動の支援の拠点に他ならないのです。

従って、図書館に対する概念を先ほどのものから是非変えてほしい。図書館の主役は利用者、すなわち市民です。図書館とは「私が求めるものを知ることができる場所」「私が求めるものを学ぶことができる場所」という考え方に一人でも多くの方が変わってほしいと願い、そのための活動をしています。

知りたい! 学びたい。実践実行。そして分かち合う。

「生涯学習」が意識されなくなったとき、ハッピーになれる。

ちなみに、図書館で何か知りたい学びたいといった時、高尚なものや学術的なものでなくてはならないと考える必要は全くありません。

ちょっとしたこと、何気ないこと、単なる日常の疑問点でもいい。いやそれこそが、生涯学習といえましょう。

何かに興味を持ち、情報や知識を得、自ら実践実行してみる。

できれば、そこで得た知識や技術を他の市民の方々と分かち合う

(この知識や技術を分かち合う無償の自発的行動こそ

生涯学習ボランティアと考えます)。

このサイクルを原動力とし、より多くの市民が図書館を利用するようになり、生涯学習活動が日常と同化して、

「生涯学習」という言葉が意識されなくなったとき、

世の中は今以上ちょっとだけハッピーになるのではと考えています。



「ゆいベース・エル」スタッフの皆さん

繁多川図書館、開館5ヶ月記念講演 10月15日10時~12時

「人と人とをむすぶ読み聞かせ~子どもたちの笑顔に支えられて」

講師 川平栄子 氏

講師に、「かびら文庫を主宰され、保育士の経験をいかされて、子育て相談やリトミック講師として、また、読み聞かせなどの活動をされている川平栄子氏」をお招きしています。

これまでの活動体験や図書館とのつながりをお話しいただけます。日頃から、おはなしや読み聞かせに興味のある方、将来教育関連の仕事に就きたい方など、多くの参加をお待ちしています。

お問い合わせ 繁多川図書館 098-853-6009 まで

今年度事業

- 1.人材育成・ネットワーク事業
図書館員研修(毎月)・大学生への図書館現場レクチャー(年1回)・大学生の図書館業務体験(年1回)
- 2.普及啓発・交流事業
生涯学習フォーラム(年1回)・生涯学習シンポジウム(年1回)
- 3.広報・出版事業
ニューズレター発行(年3回)・団体機関誌発行(年1回)
ゆいベース・エルの方針ゆいベース・エルは、次の3者に対し、サービスを展開してゆきます。

【市民】

市民生涯学習実践のための活動場所を用意する
生涯学習活動を行う上での情報要求に対し、情報提供を行う
生涯学習活動を行う上での相談に対し、助言を行う
生涯学習についての普及啓発を行う

【支援スタッフ】

支援スタッフスキル(情報収集・情報分類・情報提供・コミュニケーション等)の向上と維持を図る
リーダーを養成する(指導型から調整型への変革)
働きやすい職場環境を用意し、評価制度の確立を図る

【行政】

生涯学習施設構築・運営における提案・助言を行う
情報共有とコミュニケーションを図る
市民の生涯学習活動振興のため、協働を図る
装備、データ登録等サポート業務を実施する

特定非営利活動法人
ゆいベース・エル

〒902-0065

沖縄県那覇市壺川2丁目14-22番地

<http://www.yuibase.com/info@yuibase.com>

※HPより

「社会起業家の時代とガバナンスの重要性」

日本銀行那覇支店長 大澤真

沖縄に赴任して二年が経ちますが、この間大いなる理想を抱きつつ様々な事業を通じて地域社会に貢献しようという社会起業家(ソーシャル・アントレプレナー)に多くの知己を得ました。全員参加型の現代版組踊を通じて青少年や地域の活性化を図ろうとするアーティスト、異業種交流の触媒となって地域産業の振興に貢献しようという経営コンサルタント、馬を媒介としたホースセラピーで引きこもりの青年たちの心をケアするNPO法人代表、など事業分野・経営形態は様々ですが、新しい息吹が至る所に感じられます。米国では、特定地域の低所得者層や零細企業向け金融サービスに特化したコミュニティバンクが社会的事業として注目を集めていますが、沖縄金融界においても沖縄文化投資ファンドや電子マネー上のポイント(一種の地域通貨)を活用した地域活性化のアイデアが検討されています。

また、営利企業や地公体等の公的部門が社会起業家とパートナーシップを結び、その活動を積極的にサポートしようという動きも加速しています。営利企業においては、社会的責任を果たすことが、投資家や地域社会の信頼を得、結果として企業価値を高めることに繋がるという考え方が急速に浸透しています。公的部門にとっても、限られた財政資金の中で効率的に政策目標を達成するためには社会起業家との協調が不可欠となっています。

本誌を発行している「沖縄県NPOプラザ」のような公的機関や民間コンサルタントなどが、経営ノウハウ等の面で適切な支援を行うことも必要ですが、より重要なのは、長期的な事業継続を可能にするガバナンス(経営体としての統治)構造を確立することではないかと考えられます。

その意味では、トップが強い個性を持ち、地域社会の発展にもコミットしつつ数百年という長い業歴を重ねている同族企業(ファミリービジネス)の成功事例、そのガバナンス形態が参考になるかもしれません。わが国には、宮大工から発展した世界最古の同族企業が存在しますし、国内法人企業の95%以上が同族企業といわれていますが、その研究はまだ緒についたばかりです。一方、海外ではビジネススクールや世界のファミリービジネスを繋ぐネットワーク組織が中心となって様々な研究がなされています。例えば「同族経営は何故強いのか」(ランダムハウス講談社)では、強い同族企業の特徴を「4つのC」、即ち継続性(continuity-夢の追求に向けた長期戦略)、コミュニティ(community-結束の強い同族集団)、コネクション(connection-ビジネスパートナー、顧客、社会との互恵的關係)、コマンド(command-トップの自由な行動と適応力)に集約していますが、こうした同族企業の成功事例に学び、ガバナンスを強化すれば、社会起業家の活動はさらに大きく飛躍するでしょう。「社会起業家の時代」には、それに相応しいガバナンスが不可欠なのです。



経歴
1981年慶應義塾大学経済学部卒。同年日本銀行入行。西ドイツ留学、国際通貨基金(米国ワシントンDC)、ロンドン事務所、金融市場局金融市場課長等を経て2003年6月より那覇支店長。

大澤さんの思う、「沖縄の魅力とは？」

模合に代表される濃密な人間関係、長幼の序の精神、多種多様な文化、世界一美しい海、健康的でおいしい食べ物、泡盛など数え上げるときりがありません。

「二千円大使」に任命！～二千円使ってますか？～

二千円札を単なるお金としての位置付けではなく、「沖縄をPRするツール」として、「平和希求紙幣」として、県民から普及しようとの目的で設立した「二千円普及委員会」。委員会は県内の企業、経済、観光団体などを中心に構成され、県・市町村、経営者団体、有識者などの支援を受ける。参加団体はすべてボランティア。「大使任命」のちょっとしたアイデアで、少しずつ、活動が広がっています。

NPO with 学生

～学生と一緒に活動してみませんか?～

沖縄県NPOプラザ(調査隊おきなわ) 安次富日奈子

語学系人材を募集してみませんか?

「Day after tomorrow!」「Question No.1……」と、隣の教室や廊下の向こう側から、聞こえてくる。また、ある時は、「私、こういう者ですけど、何かできるなら」と、島ぞうりを履いた金髪の外人さんが、流暢な日本語で名刺を差し出した。

沖縄県NPOプラザは、県の語学センターの教室と同じ階のため、プラザの前の廊下には、学生や先生が行き交う。たまには、語学センターの事務所に間違われたり……。

ある日、廊下に「語学センターの皆さん、NPOに参加しませんか」とのタイトルで、語学系人材の募集をしている団体(「ボランチュなび」から拾って <http://volunchu.net/navi/>) の情報を掲示したところ、少しずつ学生が訪ねてきました。



語学センターには、学生、主婦、フリーター、会社員など、様々な方が通っていて、「語学」を実践できる場所を探しているとのこと。そこで、プラザでは語学センターの学生に向けて、「NPOへの人材交流情報掲示板」を企画しています。語学系人材を求めるNPO(法人)団体の情報(具体的活動、どのような人材を募集して、どのような仕事なのか)を、プラザの廊下に掲示し、語学センターの学生にPR致します。

PRしたい、語学系人材を募集している団体は、プラザまでご連絡下さい。

大学祭のテーマが「NPO」!?

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学の今年のテーマは、「Oh! Life 美ら島 Forever—ココロに植えよう『i』のタネ」。今回で第41回目を迎え、これまでより、一步踏み出して、「もう一度、自分たちの生活(衣・食・住)を見直そう」「自分たちに出来ることから」という思いで、県内のNPOと連携した学園祭を実行委員が主体となって、企画しています。「NPO」を前面に押し出した学園祭は、沖縄では初めて。

以前、クリーンアップのNPO活動をしたことから、NPOに関心を持ち、県内にも多くの様々なタイプのNPOがあることを知ったという。そこで、「学園祭に巻き込んでいくことで、問題(テーマ)への関心を身近に感じ、解決のヒントを得ることができないかと考えた」ことが、取り入れたきっかけ。また、来年度より、キリスト教学院大学では、NPOへの人材を養成する講義もはじまる。

これまでの学園祭とは異なり、NPO団体とタイアップすることにより、「大学の枠を超え、様々な人が参加し、様々な世代や地域の人との交流できる場所」作りを目指します。

現在、キリ短学園祭実行委員では、参加するNPOを募集しています。参加スタイルは、できる限り、各団体のしたい!を表現してもらいたいと、様々な提案を受け付けています。

詳しくは、沖縄キリスト教学院キリ学祭実行委員会 098-945-9986 まで。

=== 知って得する(^o^)/ NPOのお金の話! ===

安座間宏の「NPO 法人会計講座」PRAT2 ~10月の会計講座に向けて~

「経理帳簿の作成処理をするうえでのポイント」

今回は経理帳簿の作成処理をするうえでのポイントについて話してみたいと思います。
法人の活動をスタートさせると日々お金の動きがでてきます。

例えば

- ① ○月○日、寄付金20,000円を入金した。
- ② ○月○日、会費5,000円を徴収した。
- ③ ○月○日、電話代10,000円が、銀行口座から引き落とされた。

このような事柄(①~③)を 取引 といいます。
さてこのように日々発生する取引をどのように記録、計算、整理していったらいいのでしょうか。

ここで登場してくるのが 複式簿記 という方法です。

簿記とは帳簿記入のこと、複式とは二面的ということです。
二面的とは左側と右側(簿記の世界では借方(かりかた)、貸方(かしかた)と言います)のことです。
つまり、複式簿記とは、簡単に言うと

取引を左側(借方)と右側(貸方)に記入する手法(これを仕訳といいます)により
記録・計算・整理する方法のことなのです。
ではこの考え方をを使って①~③の取引を左側と右側に分けてみます。(仕訳するといいます)

- ① 現金 20,000円 / 寄付金収入 20,000円
 - ② 現金 5,000円 / 会費収入 5,000円
 - ③ 通信費 10,000円 / 預金 10,000円
- となります。

???なんで現金が左側にあるの? ○○収入がなんで右側にあるの?

そうなんです。これにはちゃんと理由があるのです。
その理由とは、仕訳にはルール(決まり事)があるということなのです。
そして今回のテーマである経理帳簿を作成するうえでのポイントとは、この
ルールを覚えて仕訳に慣れることなのです。

このことは例えば私たちが自動車の運転に慣れることと似ています。
自動車免許を取得するために教習所に通い、そこで車の操作や
交通法規(決まり事)について学びます。
その頃はぎこちない運転であったものが免許取得後何年か経つ頃には
あまり意識せずとも運転ができるようになっていきます。

仕訳についてもルールを覚えはじめの頃は戸惑うことも多いのですが
慣れるにつれて瞬時に発生した取引の仕訳が浮かぶようになります。(ホントです)。
なのでこのルールを覚えるという最初のハードルをぜひ越えてほしいと思います。

そして10月の講座ではこのルールの内容とその仕訳からはじまって
最後に貸借対照表や収支計算書(損益計算書)が出来上がる
過程について勉強してみたいと思います。

法人を立ち上げたばかりの方、会計初心者の方皆さん、
一緒に始めませんか?多くの方の受講をお待ちしています。



安座間宏
大城真徳税理士事務所 部長

沖縄県 NPO プラザ開催の会計講座の専任講師